

ミモザ

佐々木静江

黄金に揺るるミモザや日矢の中
人憩ふビルの谷間の若葉風
家並みに万緑迫る木曾路かな
古本と雨音聞くや桜桃忌
さくらんぼふふめば誰もおちよぼ口
海望むデッキで乾杯遠花火
長き夜や深き闇ある読書灯
芋の露ころころ遊び光食む
水の国に生まれし吾と今年酒

水鏡静けさ映す良夜かな
ひた走る車窓に溢るる羊雲
大和路や梵鐘響く鹿の町
野の花を活けて朝餉の寒卵
初日の出雲の梯子を昇りくる
町の香を孕むマフラー空の色
ため息もやる気スイツチ梅ふふむ
寿ぎのチャペルを包む春の雪
乾ききり生くる命や花の種
旧町の路地にひそりと種物屋
祝婚のピアノの調べ花ミモザ